

二高生 150 人余りでの一泊二日の東京方面企業訪問。普段は関われない生徒の皆や卒業生の方、社会で活躍している方のお話を多く聞けるととても良い機会であり、お互いを刺激し合える素晴らしい体験だった。

1 日目午前は笹川平和財団様にご協力頂き、国際的に活躍していらっしゃる様々な分野の方とのディスカッション。1 人目は青木庵様。話されることが簡潔だったのでとても聴きやすく、特に印象に残っているのは自分を知るために夢中になれる事を見つけるというお話。自分の好きな事をやれば己が出てきて自分の弱い部分や強い部分がよく分かり、感動できるというもの。この話を聞いてから私の場合はフェンシングが夢中になれるものなので、試合中の自分をよく分析してみると試合中に自分がやろうとしていた事が一度失敗すると次に繰り返すのをためらってしまっているように感じた。実はこれは数学の勉強のさいにも言える事で一度解き方を間違えるとこの解き方では解けないと思い込んでしまうのかその解き方を試そうとしなくなってしまっていた。これは青木様の話に通じるものがあるなと思った。2 人目は前川美湖様。水溶生物研究を専門として世界との関わりが深く、広い視野から日本を見ている方だった。班員の「日本人は積極的な発言をあまりしないと言われていますが、どうなのでしょう？」という質問に対し、「実際はそんな事はなく、しっかりと発言しているよ。」と答えて下さいました。やはり日本の中での日本人のイメージは、実際とは異なるのだなと感じた。私も海外へ行って、実際に自分の国がどのように感じられているのか聞いてみたいと思った。3 人目は吉田文一様。世界的な銀行に勤めていらした方で、日本人は自分達が思っている以上に素晴らしいという事を語ってくださった。オリンピックでのメダル数や GDP の高さ、自動車の産出量など意外にも世界ランキングの高い位置にいる日本に驚いた。吉田様はもっと自分達の国に自信を持って生活してほしいとおっしゃった。確かに海外での日本の評価は高いように感じ、友好的な関係を結ぶのも難しくはないだろう。そんな国の国民になれた事に感謝して、積極的に国際社会と関わりたいと思った。4 人目は大久保郁子様。残留孤児の方が故郷に戻るのを手助けするプロジェクトを主にやっている方で、私もそのような仕事に就きたいと考えていたので、多くの質問をした。会話のなかで 1 番驚いたのは、孤児の方の中にはもう故郷に戻らなくても良く、ただ自分の親戚に会ってみたいという意見を持っている方が多いということだった。私は自分の故郷に帰るのを強く望んでいるはずだと思い込んでいたので、驚いた。しかし親戚が見つかってその親戚の人が会いたくないと拒否をする事も多いらしくとても悲しい事だなと胸が痛んだ。孤児の方からすれば、遠く離れた親戚を見てみたいという思いだか、親戚からすると異国から突然親戚が来るのはやはり困惑してしまうらしい。気持ちのすれ違いを少しでもなくせるようにできたらなと思った。4 人の方のお話で感じたのは、皆さんがとてもはきはき自分の考えをまとめてしゃべっていらっしゃるという事で、やはり国際社会で働くためにはこのような事が大切なんだろうと感じた。

1 日目午後には JAXA 調布航空宇宙センターを訪問・見学させて頂いた。ここでは日本の航空宇宙産業の歴史や未来の航空機のお話を聞いた。日本の航空宇宙が最も発展していたのは世界大戦の時。軍用で受注も多く、財政に困りはしなかった。しかし敗戦後、日本は攻撃機の製造を禁止され、同時に航空宇宙の開発も止まってしまい、それが今日本の航空宇宙が世界に比べ遅れをとっている原因だそう。しかし、日本は並々ならぬ努力で開発を進めている。今は音速で飛べる飛行機を開発しているという事で、最大の難関は周囲への音だそう。音速で飛ぶという事は、それだけ周りの空気との摩擦が大きくなり、その際に発生する音も大きいという事だ。それをなくすための取り組みとしては形にこだわる事らしい。コンピュータの力を駆使し、この形なら抵抗はこのくらいで…というのを繰り返し、いい形がきまればミニチュアを作り実際に部屋で飛ばして実験するようだ。

部屋というのは普段私達が使う部屋のようなものではなく、地下などに作った空洞のようなところで空気の流れなども調整できる部屋らしい。そして何より航空宇宙で大変なのは、財政だ。ミニチュアを作るにしても多額の費用がかかり、部屋で飛ばすとなればさらに費用がかさむ。なぜこんなに多額のお金をかけて発展させなければならないのかと思う人も多いかもしれない。しかし宇宙にはまだ私達も知らない未知の空間が広がっており、

それを探求する事は人類の未来を明るくするものにする事だろう。ぜひそこを理解してもらい、航空宇宙産業がもっと発展してくれることを願う。

1 日目夜には卒業生の方とお話をする機会があり、東京大学を始めとした難関大学に通ってられる先輩方が多くいらっしゃった。その中で東京大学3年の女の先輩のお話が印象に残っている。その先輩は実家が酒蔵で日本酒をもっと広めたいと思い、自分で会社を立ち上げた方で、若手の中では1番という自信を持っていた。しかし高校時代は不登校に近い状態だったらしく、そこから立ち上がったという事で尊敬できる方だった。先輩は自分で決めた道には信念を持って進んでほしい、自分の舞台は自分で用意する、と話してくれた。これは私なりの解釈としては、自分の決めた事には自信を持って取り組み決して諦めず、自分の人生なのだから自分で自分を輝かせる道を考えて作れという事だと思った。先輩は自分の好きな事を仕事にして自信を持っていた。自分もこんな仕事を見つけないかと思った。

今回の研修では本当にいろいろなお話を聞かせて頂いた。それぞれ活躍している分野は違うけれど、皆さん全てに共通していたのは、人の話をとても真剣に聞いて下さる、ご自分の考えを簡潔にはっきりと話す、意志をしっかりと持ち、自分の仕事に誇りを持っていらっしゃるという事だった。皆さんのお話を今後の自分に役立てていければと思う。